

教科	国語	科目	国語総合	単位	3単位	年次	1年次
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂版 国語総合』						
副教材	数研出版『体系古典文法』、数研出版『体系漢文』						

1. 担当者からのメッセージ (学習方法等)

高等学校の国語では、みなさんが社会へ出たときに出会う様々な人々との交流に必要なコミュニケーション力の基盤となる国語力をさらに発展させることを目標とします。1年生の国語総合では、古典から現代までの多様な作品に触れることにより、語彙や表現スキル、状況を把握する力や感性を磨き、「自身の意思を伝える」とこと「他者の意思を理解する」ことができる人になることを目指します。授業では、以下の点を特に注意して学習に取り組みましょう。(1)評論・論説文に対して、「なぜ～」「どうして～」という批判的な姿勢で読む。(2)文学作品を想像力を持って味わいつつ、効果的な表現を学び、自分の創造力につなげる。(3)自分が文章を書いたり話したりするときは、正しい文法・語法を用い、論理性を意識する。(4)新しい語彙・重要事項は、辞書や副教材等も使用して正確に理解し、覚えるべきことは覚える。(5)集団での活動に積極的に参加し、協働性やリーダーシップを身につける。

2. 学習の到達目標

- ・国語を適切に表現し、的確に理解する。
- ・言語を適切に使用しながら、伝え合う力を高めるとともに、思考力 や想像力を伸ばす。
- ・古典や現代文の物語・小説や詩歌、評論を読むことを通じて、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。
- ・国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 話す・聞く能力	c: 書く能力	d: 読む能力	e: 知識・理解
観点の主旨	・国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	・目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	・相手や目的、意図に応じ、正しい文法・語法を用いた適切な表現による文章・詩歌・脚本等を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	・文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	・伝統的な言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・取り組み姿勢 ・ノート、ワークシート、配布プリント等への記述 ・提出期限の厳守	・取り組み姿勢 ・グループワーク、話し合い、発言、音読、発表等	・ノート、ワークシート、レポート等の点検 ・定期テスト	・授業での諸課題 ・小テスト ・定期テスト	・重要事項の定着度 ・ワークシート ・小テスト ・定期テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

月	単元	学習内容(作品)	主な評価の観点					評価方法
			a	b	c	d	e	
4	現代文 随想	清水真砂子「驚くという才能」 福岡伸一「世界は常に更新されている」			○	○	◎	学習への姿勢 グループワーク 課題提出 発表 プレゼン スピーチ 作品 ノート ワークシート 小テスト 定期テスト
	古文 入門	宇治拾遺物語「児のそら寝」 「絵仏師良秀」動詞の活用	◎	○			○	
	漢文 入門	訓読の方法			○		◎	
5	現代文 小説	芥川龍之介「羅生門」 角田光代「旅する本」		○	◎	○		
	古文 物語	竹取物語 伊勢物語 動詞の活用	○	◎			○	
	漢文 故事成語	戦国策「漁父之利」「狐借虎威」「蛇足」			○	◎	○	
6	現代文 評論	山崎正和「水の東西」 鈴木孝夫「ものことば」				◎	○	
	古文 随筆	徒然草 形容詞・形容動詞	◎	○			○	
	漢文 故事成語	戦国策「漁父之利」「狐借虎威」「蛇足」		○	◎	○		
7	現代文 詩	「整のうへ」「一つのメルヘン」「自分の感受性くらい」「I was born」ほか	○	◎		○		
	古文 文法	助動詞 助詞 ほか				○	◎	
	漢文 漢詩	漢詩のきまり				○	◎	
9	現代文 随想	内田樹「交換は愉しい」 木内昇「わからないからおもしろい」	○	○		◎		
	古文 説話	沙石集 古今著聞集 十訓抄	○	◎				
	漢文 史話	十八史略「完璧」「先従隗始」「臥薪嘗胆」				◎	○	
10	現代文 評論	池内了「『文化』としての科学」 黒崎政男「ネットが崩す公私の境」	○		◎			
	古文 日記	土佐日記		○		◎	○	
	漢文 史話	十八史略「完璧」「先従隗始」「臥薪嘗胆」	○	○	◎			

1 1	現代文 小説	夏目漱石「夢十夜」 村上春樹「鏡」	○	◎	○	○	
	古文 軍記物語	平家物語	◎	○	○		○
	漢文 漢詩	李白・杜甫ほか	○	○		◎	○
1 2	現代文 短歌・俳句	与謝野晶子・正岡子規ほか	○	○	◎		○
	古文 語法	敬語				○	◎
1 2	現代文 評論	鷲田清一「自分の身体」 上田紀行「グローバリズムの遠近感」ほか		○		◎	○
	古文 俳諧	奥の細道	○	◎		○	○
	漢文 説話	桃花源記		○		◎	
3	古文 和歌	万葉集 古今和歌集 新古今和歌集 百人一首	◎			○	○
	漢文 思想	論語		◎	○		○

※学習の内容・順序についてはあくまでも予定であり、変更がありうるが、できるだけたくさん作品を取り扱いたい。

※表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 話す・聞く能力 c: 書く能力 d: 読む能力 e: 知識・理解

※原則として一つの単元 題材 で全ての観点について評価することとなるが、学習内容 小単元 の各項目において重点的に評価を行う観点もしくは重み付けを行う観点について○を付けている。